

東京・上野の森美術館で開催中の「KING&QUEEN展」では、英国王室の華やかな肖像画を紹介している。モデルとなった国王や女王は、いずれも特徴的な姿で描かれているが、身にまとった衣装や宝石にはどのような意味があるのだろうか？ 5人の国王のファッションについて、服飾史家の中野香織さんに解説を寄せてもらった。



KING &
QUEEN
展

王室ファッション裏話

服飾史家・中野香織

①

「ヘンリー8世」

作者不詳(ハンス・ホルバイン [子]の原作に基づく) 17世紀か(原作:1536年) 油彩/銅板 ロンドン・ナショナル・ポートレートギャラリー蔵
©National Portrait Gallery, London

白いリネンのシャツは財産目録にも記された贅沢品。上に重ねたダブルレット(胴着)に連続的な切り目を入れ、シャツをつまみ出している。切り目装飾は胴着にストレッチ効果を与えると同時に、この財産を誇示する役目も果たす。手首にのぞくシャツは、手元が汚れる労働をしない地位にある人のステータス表示である。この幻影が、現代のスーツの着こなしルールとして残る。

胴着には詰め物をし、巨体をさらに大きく見せる。切り目装飾の留め金には、戦勝と権力を保証するルビーをあしらう。指輪とペンダントは、黒く見えるが富をもたらずダイヤモンド。教養、体格、武芸に秀でたヘンリー8世が、富と権力と男性性を誇示する雄クジャクの装いで酷薄な視線を投げる。実物の肖像画が私の携帯用PCと同サイズというかわいらしさで、思わず微笑みを誘われる。

富と権力と男性性誇示